

料金後納

ゆうメール

(株)育脳寺子屋MAC 本部教室 MAC真成熟
〒616-8156 京都市右京区太秦西野町20
電話:(075)871-0374 FAX:(075)882-3777

2016年
7月号

Mathematics Abacus Chinese character

MAC NEWS

お子さんが大人になった時、社会で活躍できるヒントがいっぱい!!

「MACは楽しい」を科学する ～なぜ、厳しいのに楽しいの?～



日頃は育脳トライアルの感想文の提出など、お子さんの学習意欲向上の為にご協力を賜り、ありがとうございます。

ところで、お子さんは毎回楽しんでMACに通われていますか?

先日、涙が出そうになるような感想文を提出して頂きました。

保護者欄 マックに通い始めて1年が過ぎました。
1年前は、学校でも忘れ物ばかり心配で、何回も見直していました。
元々すぐ心配り生でしたが、余りにも忘れ物の事を気にしていました。
そのうち、学校でもマックでも忘れ物なしが続き、自信がったようです。
3年生になってから、やる事が多くなり、それが楽しいようです。
宿題も出るようになって、大変かな?と心配していましたが、
自分から「宿題がいい?」と笑いながら言っているようです。
先日はマックからの帰り、「ママ、マック楽しいわー。ママ、何で
習わせてくれたん?ありがとう」と言われて、びっくりしました!!
そろばんも論語もすべてに楽しんでるようで、こちらも嬉しい限りです。
最近はお目もキラキラしています。

MACは他の塾に比べると、とても「厳しい」塾だと思います。

忘れ物をしたら授業を受けずに帰ってもらいますし、勉強以外のことで叱ることも多いです。時には大きな声で厳しく注意することもあります。

本当はいつもニコニコ、叱るべき所も「ダメだよ～」と優しく注意すればこちらも楽なのですが、それで叱るべき所が直れば苦労はしません。子供達の為に心を鬼にして時には厳しく指導している点、ご理解下さいね。

無記名アンケートの結果 80%が！

以前、小学部の生徒に無記名のアンケートを実施しました。

MACの授業はどうか？

「とても楽しい」「楽しい」「普通」「楽しくない」のどれかを選んで下さい。

結果は 80%の生徒が「とても楽しい・楽しい」を選択、19%が「普通」、1%が「楽しくない」の結果でした。どうやら「楽しくない」を選んだ生徒は、アンケート実施前の授業で厳しく叱られた子のようなようでした。無記名ですが、書く字でだいたい分かります（笑）

なぜ厳しいのに楽しいのか？

なぜ勉強しているのに楽しいのか？

これにはちゃんとした理由があります。良い機会ですので、MACのことをより良くご理解頂けるよう、また子供達がどのようにMACで学習をしているのか詳しく解説致します。

「自分で」だから楽しい

MACは約 90 分の授業時間の中で、各自決められた学習内容をすべてこなさなければ

なりません。当然、することが遅ければ帰る時間が遅くなりますし、することが早ければほかの人よりどんどん進んで学習することだって可能です。

そのような中で子供達は低学年であっても、「時間的な感覚」や「段取り能力」を知らず知らずのうちに身につけています。この力は社会人になっても必須の能力で、大人になってから鍛えようとしてもなかなか難しいのです。

その 自分で授業を組み立てている という満足感・達成感が、自信になり、また楽しさに繋がるのです。

「最近、集中力が付きました」

「物事にじっくり取り組めるようになりました」

というコメントを頂くことがよくあります。これはまさに上記のような満足感・達成感から『自己肯定感』を高められている証拠なのです。

主役は「先生」ではなく「生徒」

そして普通の塾との大きな違いは「自学自習」スタイルだからです。

最近は多くの塾が「自学自習」と謳っていますが、内容は普通の塾と同じく、先生が丁寧に解説をして、生徒はそれを覚えるという授業をしている場合が多いのです。

イメージして下さい、大手の塾や予備校の授業を。

経験豊富なベテラン講師が熱のある授業をして、生徒達がそれに見入っている。

そんな場面が思い浮かびませんか？

そのイメージはほぼ正解だと思います。多くの塾では主役は「先生」なのです。先生が入念な準備をし、シミュレーションを繰り返し、授業をします。

入念な準備をし、シミュレーションを繰り返すことは授業の品質向上のため必要なことですが、あくまで勉強をする主役は「生徒自身」でなければなりません。

現在小4になったある塾生がお母さんに

「学校は先生が黒板に問題を書いて、僕らが解いて、間違ったらすぐに正しい解き方や答えを言う。MACみたいにもう一回考える時間が欲しい。」

と言っていたそうです。

本来、子供達は（大人もだと思いますが）「分からないことが分かる」のはすごく嬉しい、楽しい事です。しかし一斉授業だとカリキュラム上進めなければならないペースがあるため、そのような方法にならざるをえません。

そのような理由から個々に合わせた指導を、ということで「個別指導」が流行ったのですが、ほとんどの塾は学生アルバイトです。個別で質の高い先生を付けようとしたらそれこそ月謝が軽く数倍になるでしょう。

少し話がそれましたが、上記の塾生は「自立学習」の習慣を身につけた上で、自分自身で「分かる」ようになる喜びも身につけているのです。

MACの募集対象が、原則「幼児～小3」の理由

実はMACが原則幼児～小3の募集に限定しているのはここに理由があります。

小学3年生くらいまでは学校の勉強がそこまで難しくないので、上記のような「自学自習」の学習習慣を習得するための時間に充てられるのです。

低学年のうちにこの習慣を身につけられれば、勉強が難しくなる小学校中学年～高学年、中学に入学してからも「教えて貰っていないからわからない」ではなく、なんとか自分で調べたり、あれこれ考えてそれなりに答えを出せるようになります。

小学校中学年～高学年で入塾してくる場合、勉強は「教えて貰うもの」という価値観が付いている場合が多く、そこから「自学自習するもの」という価値観に変えるためには、それなりの時間と本人の相当の努力を要する場合があります。(それでもここ数年は、小学校中学年以上で入塾してから、成績を伸ばしている子が続いています)

そのテストの点数、塾の力？自分の力？

塾の力で、その子の実力以上のテストの点数を取らせることは、どちらかと言えば容易です。

毎年のデータもありますし、各単元どこがポイントかは絞られるので塾がまとめて、試験一週間前に生徒を缶詰状態にして徹底的にそこだけ取り組ませれば、恐らく実力以上の点数は取れるでしょう。

しかし、それに何の意味があるのでしょうか？

それは本人の力になっているのでしょうか？

今後の人生で役にたつのでしょうか？

そのテストでは良い点数が取れるかもしれませんが、テストが終わった翌日にはきれいさっぱり忘れ去られています。本人の力で蓄積した知識ではなく、詰め込まれた知識だからです。

余談ですが、京都で御三家（嵯峨野、堀川、西京）と言われる高校のある先生と話す機会がありました。

「入学者の約7割は大手塾出身です。しかし、大手塾出身の子は塾が完璧な対策をして、それで入学してきているので、伸びしろが無い子が多い。しばらくして付いてこれなくなる子も多い。残りの3割は塾に行っていなかった、もしくは個人塾出身者で、入るときはギリギリだけど『自分でする力』を持っているので、入ってから伸びる」

とおっしゃっていました。あまりに予想通りだったので驚いた記憶があります

MACはこの『自分でする力』を伸ばすことを一番の目標にして授業をしています。

お分かりの通り、この力は一朝一夕で身につくものではありません。本人の努力も必要ですし、指導者や親の根気も必要になります。特に親の気持ちとしたら数字で表される「成績」や「テストの結果」にすぐに反映されなければ、今の取り組みは間違いなのでは？と不安になると思います。

だからこそMACでは毎月育脳トライアルの感想文を書いて頂いています。

多くの生徒は幼児・小学1年生から入塾してくるので、我々は長期間に渡ってその子を指導します。その中で、すぐに成績には表れなくとも個々様々な成長を見せてくれます。しかしその成長は、親はなかなか気づきにくいのです。

その「数字には表れない成長を感じて頂きたい」というのが、感想文を書いて頂いている一番の理由です。

オリンピック選手と同じ練習をしたら、必ず同じくらいのタイムが出せるかと言えばもちろん否です。MACで学んだ子がみな成績オール5になるかと言えば決してそんなことはありません。

しかし「不親切・不自由・不便」というMACの環境の中で、自分でなんとかする力は皆につきます。その力が身につくことが自信へと繋がり、「厳しい」を通り越して「楽しい」となるのではないのでしょうか？

難関校に入学し、良い環境で質の高い授業を受けることは良いことです。

しかし、志望校に入学する為の勉強をして受かるのと、自学自習でしっかりと実力を上げた結果志望校に受かるのでは、入学してから大きな差が生じます。

MACでは高校に入学してから困らせないように、幼・小・中でしっかりと鍛えます。みなさん、覚悟して下さいね(笑)